

論壇

加害者も被害者も全人類

今年も暑い夏が続く。ここ数年、これまで人生で経験したことのないような暑さだ。日本だけではなく、フランスでは40度を超える暑さであったと報道されていた。異常な気象条件は温度だけではなく、つい先ごろも西日本に大型の台風が上陸した。天気予報での雨量の数字を見ても、これまであまり経験したことのないような規模だった。

いったい地球はどうなってしまうのだろうか。これが地球温暖化や地球気候変動と専門家が呼んでいる現象の一端なのだろう。気

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

地球温暖化 関心高めて

候変動の影響は、夏の暑さや大型台風だけにとどまらない。北極の水が溶けることで水面が上がり、相当な面積の土地が海中に沈むという恐ろしい話もある。スペインやカリフォルニアで山火事が次々に起きているのも、温暖化現象の結果である。

人類は長いこと、この気候変動

える。

地球気候変動の問題は、経済学で外部性問題として扱われる。外部性とは、人々の行動が環境などを通じて他の人に影響を及ぼすことだ。私たちが石油や石炭などの炭素燃料を利用するほど、地表近くに蓄積する二酸化炭素が増え、これが気候変動を通じて、人

の問題に取り組んできた。温暖化の原因となる二酸化炭素などの温暖化ガスの排出を減らそうというのだ。そのために、電気自動車やハイブリッド車を増やし、風力や太陽光などの再生可能エネルギーの利用を拡大しようとしてきた。こうした試みは重要であるが、その対応はあまりにも遅いように思

間を含めた全ての生物に外部効果をもたらすのだ。加害者も被害者も全ての人類であるというのが、問題を難しくしている。

加害者は今の人類だけではなく、産業革命から200年以上にわたって人類は石炭などを使ってきたが、これが現在の二酸化炭素の蓄積につながっている。つまり

加害者は過去にずっとさかのぼる。そして被害者は現在生活している私たちである以上に、将来世代の人たちである。今の子供たち、さらにはこれから生まれてくる子供たちの将来は悲惨なことになっているかもしれない。残念ながら、私たち世代は将来世代に悲惨な地球を遺そうとしているのかもしれない。

今からでもできることを

専門家の方々の話を聞いていると悲観的な気持ちにならざるを得ない。それでもまだ遅くない、今からでもできることはたくさんある、というのが専門家の方々のメッセージである。こうした科学的な知見が国連を動かし、パリ協定の締結につながった。世界で最も温暖化ガスを排出して

いる中国と米国が参加した協定が成立したということは画期的なことだった。残念ながら、トランプ大統領はそのパリ協定からの脱退を決めてしまった。また、気候変動の対策が後退してしまった。

今年のこの異常な暑さは耐えられない。ひどいものだ。ただ、この暑さにも一つだけよいことがあるかもしれない。それは、世界中の人が地球気候変動の問題を肌身で感じる機会となるからだ。この暑さはいつまで続くか分からない。秋になると、「喉元過ぎればあつさを忘れる」という人も多いかもしれない。そうではなく、この夏の暑さを、気候変動問題への関心を高める重要な機会としてほしいものだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。